

ちづぐらし

—子どもと繋ぐふるさとリノベーション—



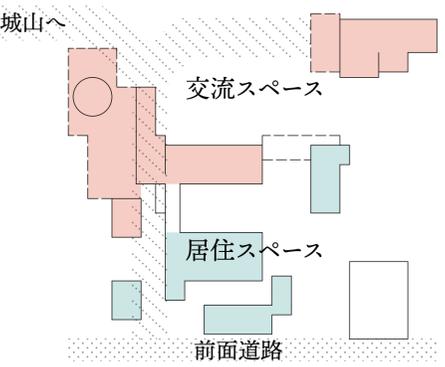
森のようちえんを起点として移住者が増えつつある鳥取県智頭町に対し、移住者と地域住民のコミュニティハブとなるシェアハウスを提案する

背景 鳥取県智頭町は人口減少の続く過疎地だが、移住者が「森のようちえん」を設立し子育て世帯の移住が盛んである。私はこの場所を調査対象地とし、卒業論文を執筆した。
本設計では、その中で浮かび上がった「移住者と地域住民が交流する場所が無い」という課題に対する提案を行う。

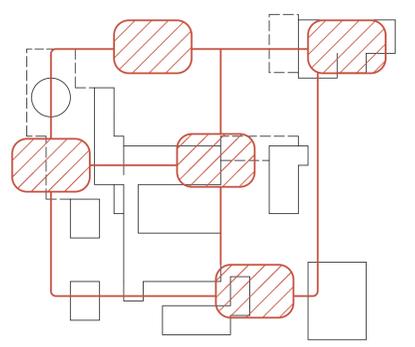
提案 シェアハウス...移住希望者が家探しや仕事探しなど、生活の基盤を築きながら共同生活

交流機能...地域住民に、智頭ならではの活動や四季折々の生活を習う生活が難しくなっていく高齢者を助ける機能も担う

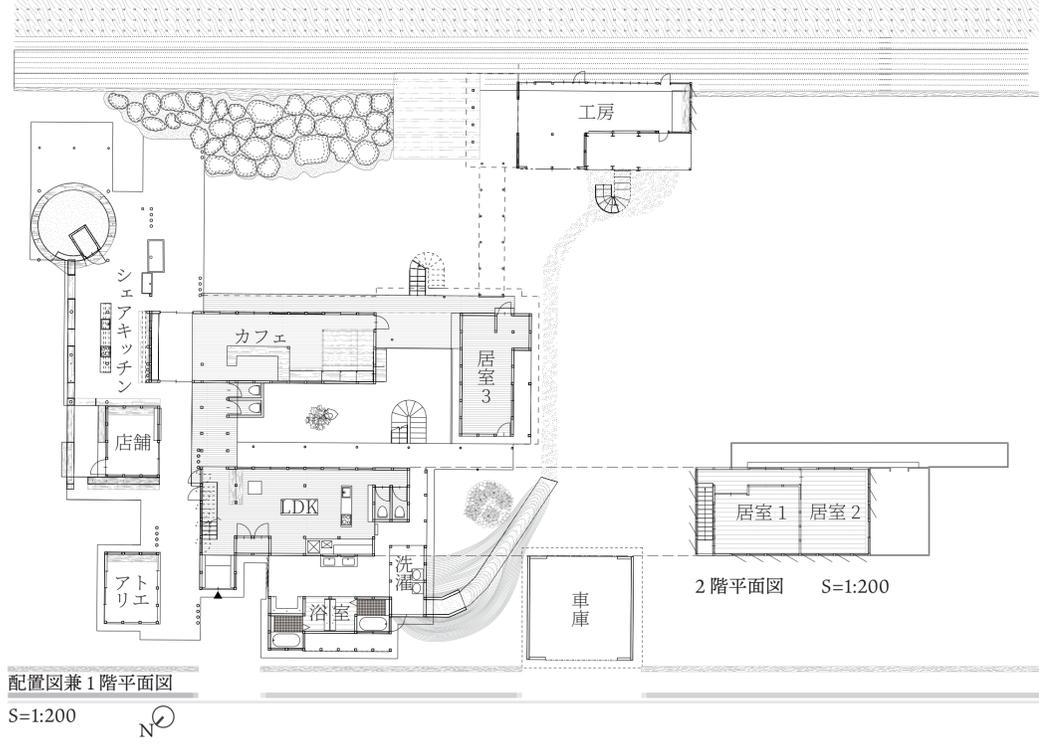
敷地 私の祖父の家を敷地とする。付近には森のようちえんの拠点があり、移住者と地域住民の生活が重なる地域である。
敷地内の城山はかつて往來の見張りとして使われた小山で、現在はお花見など地域の人が集う場となっている。そして、城山を含む敷地内は森のようちえんのお散歩コースとなっており、この家は移住者と地域住民の暮らしが交わる場所である。



地域住民との交流スペースを奥に引き込み、前面道路からの道を軸とする。



自分の記憶を基に遊び場を設け、敷地内に分散した機能をお子の子供の遊びの動線をつなぐ



水路と工房を見る。水路の上にステージがかけられ、畔とつながる

店舗外観 棚が拡張され、居場所や遊び場を作る

土のトンネル入り口を見る

カフェ南側 縁側と半屋外空間がつながり敷地を巡る

